決裁	議長	局長	主事	

受付

報告書

平成２９年　　月　　日

湯前議会議長　　山下　力　様

湯前町議会議員

議員派遣として参加（出席）した研修（会議）の内容（結果）は、次のとおりでありました。

期　間	平成２９年７月１８日（火）～１９日
場　所	熊本県庁、宮崎県庁、宮崎市「ホテル間リックス宮崎市）
目　的	一般国道２１９号整備促進に関する要望活動 三市町村議会国道整備促進合同協議会総会

報告の内容

［派遣議員］　経済建設常任委員会（倉本、味岡、森崎、黒木り、椎葉）

◆内容

1．国道219号　整備促進要望

・西都市・西米良村・湯前町による本事業要望は、今回で49回目。
宮崎県の押川県議、熊本県の松田県議、緒方県議、三市町村長にご支援いただいた。

・国道219号（全長約200km）のうち、湯前町～西都市の区間は現在も整備が進んでいる。特に西米良村～西都市区間（全長60km）は、未整備区間が約2割残っている。

・湯前町側は、横谷トンネルまでの整備が終わり、上里地区の歩道整備が進行中。
大型車が円滑に離合できない幅員、高齢者や通学児童・生徒の通行が危険な現状。

・道路整備には、ストック効果※とフロー効果※がある。
西米良村長は、このストック効果を強調されていた。
災害、経済、生活における「いのちの道」として、国道219号の役割は大きい。

※：ストック効果

道路が整備され供用されることで、人流・物流の効率化、民間投資の誘発や観光交流、人口・雇用などを増加させる長期的な経済効果

※：フロー効果

公共投資を行うことで生産活動を活発にし、原材料や労働力の需要の拡大や生産機会・雇用機会の創出等、経済活動を活性化させる短期的な効果

（↑写真は、総会の様子［リバーサイドホテル熊本］）

２．益城・御船方面　熊本震災後の現状視察

・熊本地震からちょうど3ヶ月。
国道219号　整備促進要望の翌日、被災地の一部を視察。

・個人住宅の損壊など、まだまだ多くの爪痕が残っている。
避難所生活も続いている。

◆所感

・被災地を視察しながら、住宅や公共施設の耐震化、そして「いのちの道」の重要性を改めて感じた。